



立命館大学 経営学振興事業だより

Across

立命館大学経営学部校友会会長 稲岡 典彦



校友による 活発な活動・ 組織作りを

立命館大学経済学部経営学科および経営学部卒業生(校友)のみならず、この度、経営学部校友会会長に就任いたしました。もとより微力ではございますが、全力で任にあたる所存ですので、ご交誼とご指導を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

さて、立命館大学は、2000年に創始130年、創立100周年を迎え、我らが経営学部は、2002年に40周年を迎えることができました。これを機に、校友同士の交流、情報交換、現役学生との交流をはかることや、学外でのネットワークを進展させ、有益な場となることを希望して経営学部校友会を発足さ

せました。また、同時にホームページ(以下、HP)も開設し、皆様の近況報告やご意見、ご要望を数多く頂戴し、活発なHP運営を行いたく考えております。

経営学部は、1962年に創設され、以来40年を経て、大学や学部を取り巻く社会、政治、経済、企業活動の状況は大きく発展、変化しています。こういった社会の変化の中、「ビジネスを発見し、ビジネスを創造する」経営学の研究と教育を行っていきます。すなわち、情報化、国際化、地球環境との調和、社会発展への貢献など多様化する企業の行動様式を、広く科学的、実践的に捉え、企業経営の進路を創造的に切り拓く、豊かな人間性を備えた人材を育成し、社会に発信する経営学の研究と教育を行うことを教学の目標としています。

経営学部校友会では、校友の皆様はもとより経営学部で学ぶ現役学生にも喜んでいただけるような活動・組織作りを行っていきたく考えております。そして、経営学部・経営学部校友会が共に発展し、ひいては立命館大学全体の発展に繋がるのが我々の思いでもあります。

最後になりましたが、更なる立命館大学ならびに立命館大学経営学部の益々の発展と校友の皆様のご健勝を祈念いたしましてご挨拶とさせていただきます。

立命館大学経営学部長 玉村 博巳



40年の 歴史を土台に、 更なる前進を

立命館大学経済学部経営学科および立命館大学経営学部卒業生の皆様には、日頃より本学部の発展のために様々なご尽力を賜りまして、厚く御礼申し上げます。

1962年に創設された立命館大学経営学部は、2002年度をもって40周年を迎えることができました。昨年11月30日に行いました経営学部創設40周年記念式典には500名を超える卒業生、校友、日頃からお世話になっている関係者の皆様、学園関係者にお集まりいただき、盛大に執り行うことができました。改めまして御礼申し上げます。

さて、経営学部は、この間「自由と清新」の建学精神と「平和と民主主義」の立命館大学教学理念に基づき、豊かな

教養と経営学の専門性を身につけた、多くの人材を社会に送り出してきました。経営学部では、多様化する企業行動を、科学的かつ実践的に捉えることのできる人材、創造的で豊かな人間性を備えた人材を養成し、社会に送り出すことを目標としてきました。

1998年以来経営学部は、「郊外型」のびわこ・くさつキャンパス(BKC)において一段と高い教学レベルを目指し発展を続けています。2002年度からは、大学院経営学研究科にプロフェッショナルコースを開設し、高度職業人教育をさらに充実しビジネスリーダー養成を重視することになりました。

こうした取り組みの中で、念願でありました経営学部校友会が創設され、新たな展開ができますことを大変嬉しく思っています。40年の歴史を土台に、経営学部の更なる前進のために気持ちを引き締めなおし、取り組まなければならないと考えています。

卒業生の皆様には、引き続き積極的なご支援をお願いする次第です。

最後になりましたが、卒業生の皆様のご活躍とご健康を祈念し、経営学部校友会を通じた交流を期待しまして、ご挨拶とさせていただきます。

経営学振興会から経営学部校友会へ！ 今後の経営学部校友会に大きな期待！！

経営学部創設40周年を記念して、2002年11月30日に経営学部校友会が発足しました。この校友会は、1998年5月に発足しました経営学振興会をさらに広範な校友の参加を可能にするものへと発展的に展開し、校友の懇親と交流や経営学振興の新たな飛躍をめざすものです。これまで産官学交流・連携を進めるための事業を行ってまいりましたが、この事業を継承・発展させていきたいと考えています。

本号は、(1) 最後となりました経営学振興会第6回総会、(2) 新しく事業継承を行った経営学部校友会の第1回幹事会、(3) これまでご尽力賜った蟹江会長を囲んでの座談会、(4) 寺島実郎氏による記念講演会の様子、(5) 懇親交流会の様子、についてご報告します。

経営学振興会第6回総会

去る6月7日(土) ホテルグランヴィア京都に於いて、第6回経営学振興会総会を開催しました。2002年11月30日に設立された経営学部校友会への事業継承を含め、本総会が実質経営学振興会としての最後の総会となりました。

総会では、2002年度の事業報告がなされた後、設立時からの事業を振り返りながら進められました。今後は、経営学部校友会事業の一環として経営学振興会事業を継承し、経営学部校友会全体の発展と経営学振興の為にあらためて会員全員で頑張っていこうという決意をこめて、経営学振興会という名称を改め、経営学振興事業として幅広い活動を行っていくこととなりました。さらに、経営学振興会の会員の方々は経営学部校友会会員へと自動的に引き継ぐということを確認して閉会しました。

閉会に併せて、最後には、経営学振興会設立当初から会長として多大なご尽力を頂戴しました蟹江嘉信氏に感謝の意をこめて花束贈呈を行い、会場全体の拍手が鳴り止みませんでした。



蟹江嘉信経営学振興会会長

経営学部校友会第1回幹事会

昨年11月30日に設立されてから第1回目の幹事会ということもあり、今後の事業にむけて意見交換を行いました。

幹事会は、議長である稲岡典彦校友会会長と西形方良同副会長の司会でスムーズに進行され、今後の経営学部校友会活動の発展・活性化にむけて一丸となって頑張っていくことの意志確認を行いました。

また、各種講演会やセミナー開催をはじめとする経営学振興事業等については、ダイレクトメールや新たに校友会の広報媒体であるホームページなどを通じて宣伝を行っていくことになりました。さらに、校友会への幅広い参加を訴えるために、経営学部を卒業された方々への積極的な広報展開を行っていくことを確認しました。



稲岡典彦経営学部校友会会長

蟹江嘉信氏を囲む座談会

第6回経営学振興会総会終了後には、蟹江氏を囲んでの座談会を行い、これまでのご苦労話や、今後の経営学振興事業を含む、経営学部校友会へのご期待・ご意見を頂戴しました。総会が終了した後だったのか、座談会は終始リラックスしたムードで行われ、約40分間有意義な意見交換ができました。

寺島実郎氏記念講演会

第6回経営学振興会総会と経営学部校友会幹事を記念して、寺島実郎氏（三井物産戦略研究所所長）による講演会を行いました。本講演会には事前申込で定員一杯の100名を超え、講師の寺島氏がテレビなどで注目を集めているだけに、さらにテーマも時宜を得たものであったため、講演開始前にはあつという間に会場が聴講者で埋め尽くされ、奥村経営学部教授の司会で開演されました。

テーマは、「イラク戦争後の国際社会の変化と日本の位置・国家戦略はいかにあるべきか?」ということで、日本が置かれている大きな世界潮流、思うに任せぬアメリカという側面、中国の必要性、世界の常識について講演され、内容の濃いものとなり、聴講者も真剣に聞き入ってメモをしていました。

講演会の内容につきましては、既に速報版をお送りしておりますが、校友会ホームページの経営学振興事業でもご覧いただけます。



寺島実郎氏



懇親交流会

寺島氏講演会終了後、経営学部校友会・経営学振興会の懇親交流会が執り行われました。やはりネットワークの形成、懇親交流の場には交流会が一番のようです。

懇親交流会には稲岡校友会会長を始め、多数の参加があり非常になごやかでありながら、パワーも感じる交流会となりました。今後は更に多くの方にご出席していただき、ネットワーク形成に役立てていただきたいと思います。

事業再生アドバイザーによるセミナー開催！ 経営学振興事業第1回セミナー

経営学部校友会経営学振興事業の2003年度第1回セミナーは、去る8月30日（土）に大阪淀屋橋にある立命館アカデミア@大阪（大阪オフィス）のセミナールームで開催されました。講師には、今話題の事業再生アドバイザーとして活躍されているフィナンシャル・アナリスト、ターンアラウンドアドバイザーの岸本光永氏をお招きして、約25名の参加を得て行い、質疑応答を交え2時間半にわたる熱のこもったお話となりました。

講演内容は多岐にわたり、現状認識から最近の倒産の特徴、中小企業における事業再生と問題点、今後の課題まで現場経験を踏まえてのものでした。

講演会の内容につきましては、既に速報版でお知らせしておりますが、校友会ホームページの経営学振興事業でもご覧いただけます。



岸本光永氏

❖ 経営学振興事業第2回セミナーのご案内

日 時：2003年11月29日(土) 午後2時～4時30分(予定)
場 所：キャンパスプラザ京都 5階「第1共同研究室」
講 師：牧田正裕氏（立命館アジア太平洋大学助教授）
テーマ：不思議の国のAPU、そこに集う面々

業種	2000年度	2001年度	2002年度
製造業	137	197	187
建設業	227	254	234
卸売業	145	182	131
小売業	114	128	106
運輸・通信業	24	42	42
ゴルフ場	25	42	32
パチンコ店	16	11	5
病院・医療	12	10	5
娯楽ホテル	13	45	25
その他のサービス業	22	65	85
サービス業計	38	159	202
不動産業	23	41	39
その他	9	15	7
合計	804	1,019	984

各種講演会等のご案内

青木豊彦氏講演会

講師：青木豊彦氏
(航空機部品メーカー 株式会社アオキ代表取締役社長)
開催日：2003年11月21日(金)
時間：14:10～15:40
会場：立命館大学BKC(びわこ・くさつキャンパス)
プリズムホール
備考：入場無料・予約不要

立川敬二氏講演会

講師：立川敬二氏
(株式会社NTTドコモ 代表取締役社長)
開催日：2003年12月16日(火)
時間：14:10～15:40
会場：立命館大学BKC(びわこ・くさつキャンパス)
プリズムホール
備考：入場無料・予約不要

ご入会のお申し込み、ご紹介、お問い合わせは下記へ

立命館大学経営学部校友会事務局
(教務センター経営学部内)

TEL：077-561-3941/FAX：077-561-3957

E-MAIL：baoffice@st.ritsumei.ac.jp

<http://ritsba-kouyukai.jp/>
(ホームページ随時更新中！)

ただいま経営学部卒業生の方には、大学校友会発行の『りつめい』最新号(214号)に、「経営学部校友会入会へのご案内」を同封しております。知人の方でまだご入会いただけていない方にお勧めいただければ幸いです。

編集後記

「経営学振興会」から「経営学部校友会」へと衣替えしてからの「アクロス」第1号になる。会員が増えた分だけ事業活動もやすくなった。「アクロス」ももっと「会社訪問」記事を増やそうと話している。今回は、この間の組織替えに関わった問題を中心にまとめた。経営学振興事業をますます活動的にしていきたい。本号がその第一歩になればと思う。

考えてみれば、経営学部、さらにはその前身である経済学部経営学科、さらにその前身の商業学科など関連の卒業生は大変な数である。私学においては数は力なりである。しかも多士済々。現役学生諸君にとってみれば大変な援軍だと思う。これを活かさない手はない。経営学部校友会、経営学振興事業で産学連携の実を一層あげていきたいと思っている。(M)



ホームページ 雑感

経営学部教授 松村勝弘

私の研究室にはホームページ (<http://www.finance.ritsumei.ac.jp/matsumura/>) がある。その骨格は私のもとで研究している大学院生が作ってくれたもので、さらにこれを2年前のゼミ生が改良してくれたものだ。このゼミ生N君は情報学科の学生で、センスがよく、なかなかの出来で、yahooにも登録してくれた。普通はそう簡単には受け付けてくれないそうだが、彼のセンスの良さからyahooも認めてくれたようだ。

だからアクセス件数は今年10月21日現在55,000件を超えている。延べ数は、改良前12184人、改良後43564人で、全国の経営研究室関係のアクセス件数ではトップクラスである。ランキングをしているサイト (<http://www.siterank.org/jp/cat/1100105478>) によると、まさにトップ、ダントツということになっている。

アクセス件数が増えるのはよく更新しているからである。ということは手間をかけているということである。とくに、日記欄があるのだが、その改良をしてくれたゼミ生がこまめに日記を書いて下さいと言って、そのコーナーをつくってくれたので、書き始めた次第。でもこれは書くのが結構大変である。

その他、講義レジュメなどもこのHPにアップしてある。ゼミの掲示板があるし、回生ごとの掲示板や卒業生の掲示板にもリンクが張ってある。したがって、かなり強力なホームページになっているわけだ。だからこそアクセス件数が多いのだろう。そのなかに、「松村通信」という私のエッセイのコーナーがある。これは、このホームページができる以前から、思いつくままに書いて、卒業生や学生、とりわけ社会人学生に配っていたものだ。これをホームページからでも読めるようにしたわけだ。

あれやこれやで、内容豊富なホームページになったと自負している。だからアクセス件数も多いのだと思っている。どのコーナーが一番人気があるのかそれはわからない。ただ、日記のコーナーなどはよく読まれているようだ。

ホームページの日記やエッセイには他の研究室にも面白いものが多い。経済学部のO先生や理工学部のI先生、A先生、H先生のエッセイなども人気がある。私もときに読ませていただくが楽しい。「松村通信」の最近の第52号は「儲かる銀行？」となっている、その前の第51号は「貸しはがし・資金回収」となっている。やはり、ファイナンス・インスティテュート運営委員長としてはこういうネタをよく書くことになる。書評というか本の紹介を書くことが多い。もちろん「偏向」がある。この「偏向」こそが私の主張でもある。

こういうエッセイを書いていると、ときに反応がある。卒業生から反応が来ることがある。そういう反応を楽しみに「日記」やエッセイ(松村通信)を、せっせと書いているわけだ。まさに世はインターネットの時代だ。